

浅間山

火山活動度レベル(平成16年2月1~29日)

2(やや活発な火山活動)

概況(平成16年2月)

火山活動は、やや活発な状態が続いています。

地震活動は、昨年6月末頃から始まった微小な地震がやや多い状態が継続しました。また、規模の小さな火山性微動が時々発生しました。

火口底温度は依然高温部が見られますが、全体としては低下傾向にあります。

以上のことから火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も山頂付近に少量の降灰をもたらす小規模な噴火の起こる可能性はあります。山頂付近では少量の降灰や火山ガスに注意が必要です。

地震活動の状況

2000年9月から地震活動のやや活発な状態が続いていましたが、2003年6月末頃から微小な地震が増加し、2003年7月~2004年1月に引き続き2月も地震回数のやや多い状態が継続しました。今期間、1日あたりの地震回数は、50~80回程度で推移しました(全て無感地震、表1、図1)。月地震回数は1,993回で、2000年9月以降最も多くなりました。1,900回を超えたのは、1975年7月の1,976回以来です(図3)。

火山性微動は、3日に1回程度の割合で発生し、その規模は基準観測点(B点、火口の南約2km)での振幅が0.1 μ m前後、継続時間が約1~3分で、全て小さいものでした(表1、図2、図4)。

表1 火山性地震・火山性微動日別回数表(浅間山)

浅間山(B点)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
低周波地震	88	79	49	59	58	60	74	59	52	75	653
微動	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	4
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
低周波地震	66	94	78	91	82	60	57	65	65	89	747
微動	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	5
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	旬計	月計
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
低周波地震	90	62	32	58	80	63	73	74	60	592	1992
微動	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	11

短期・日別 地震活動推移 (最近2年間の火山性地震・火山性微動の日別回数)

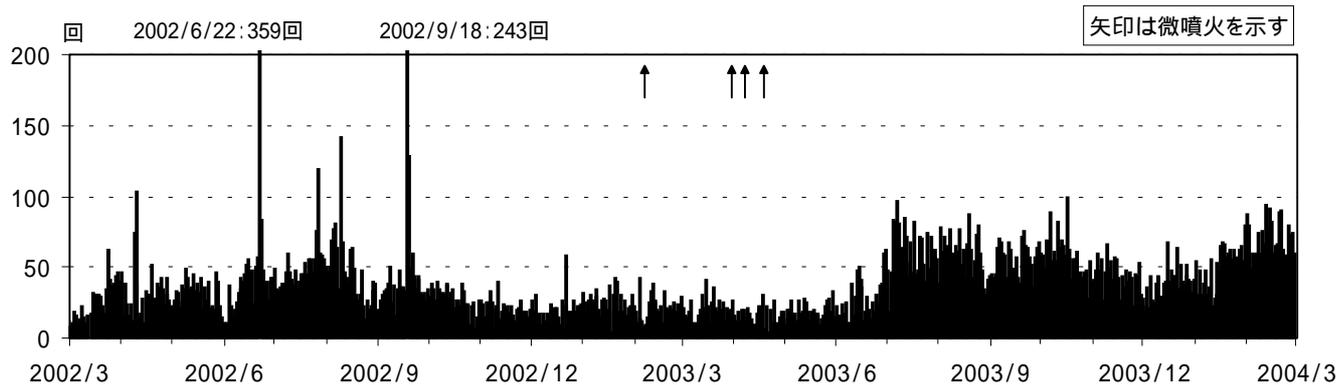


図1 浅間山 火山性地震日別回数(2002年3月1日~2004年2月29日)

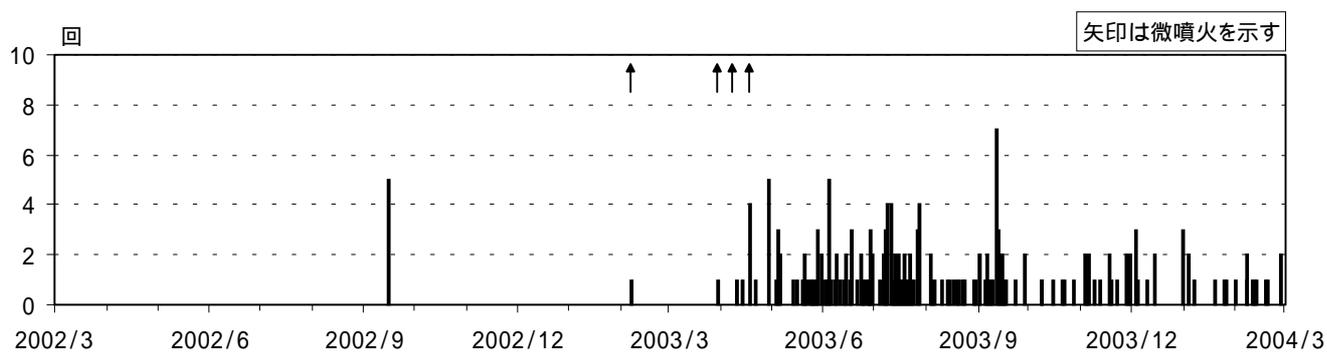


図2 浅間山 火山性微動日別回数(2002年3月1日~2004年2月29日)

長期・月別 地震活動推移 (1964年1月以降の火山性地震・火山性微動の月別回数)

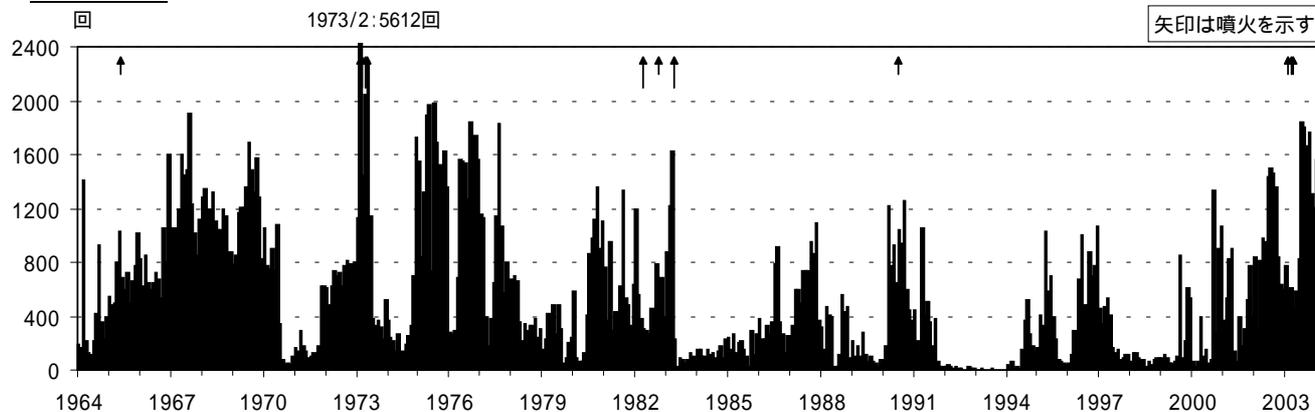


図3 浅間山 火山性地震月別回数(1964年1月~2004年2月)

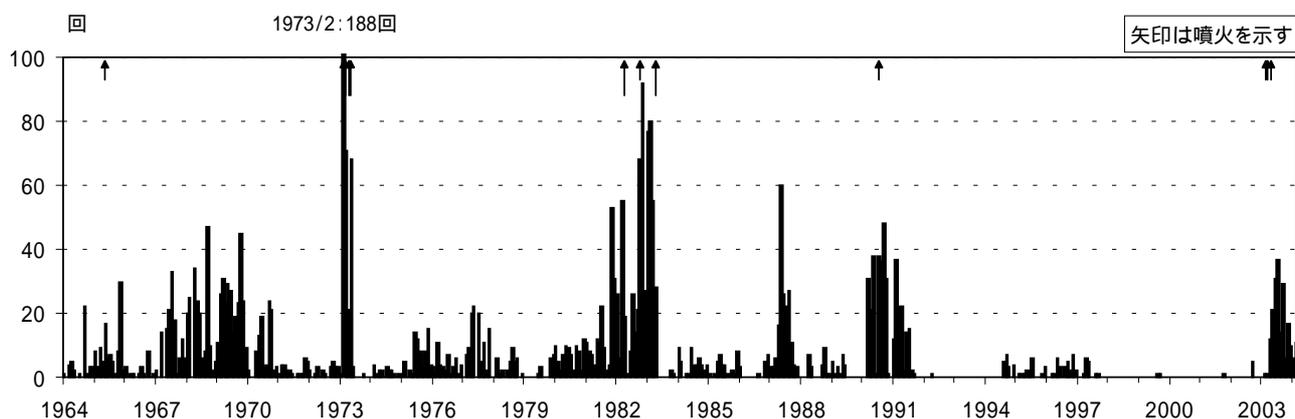


図4 浅間山 火山性微動月別回数(1964年1月~2004年2月)

噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、観測できた日数は19日でした。噴煙高度の最高は500m(27日)、噴煙量の最大は2(少量、6,8~10,21,27日)でした。噴煙活動はやや活発な状態が継続しましたが、定時観測時に噴煙なしの日が5日あり、次第に1998~2000年頃の落ち着いた状態に戻りつつあります(図5~7)。また、昨年4月18日の極小規模な噴火以降、有色噴煙は観測されていません。

短期・日別 噴煙活動推移 (最近2年間の日別噴煙高度)

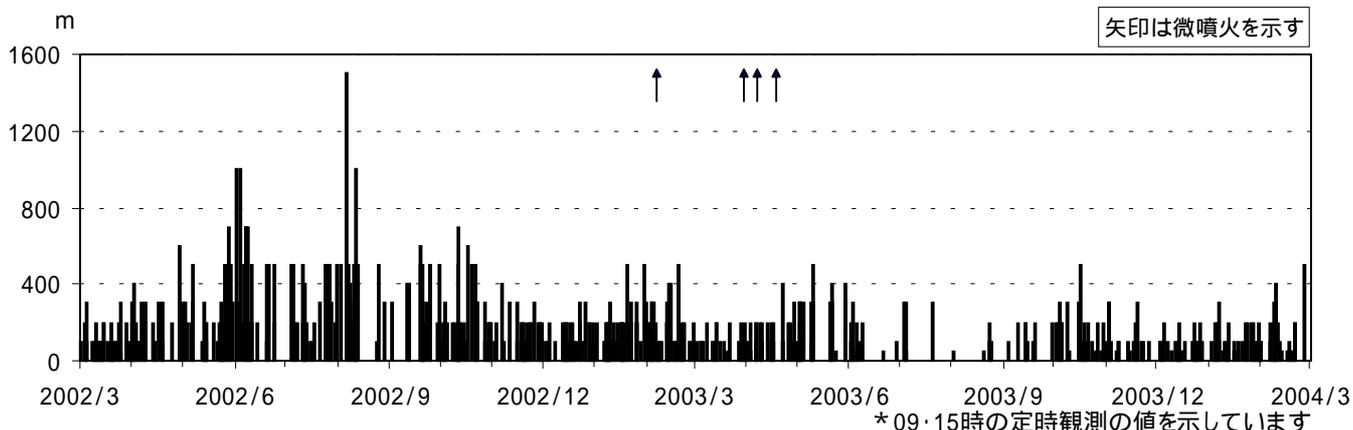


図5 浅間山 日別噴煙高度(2002年3月1日~2004年2月29日)

長期・月別 噴煙活動推移 (1964年以降の月別噴煙高度・月別噴煙量)

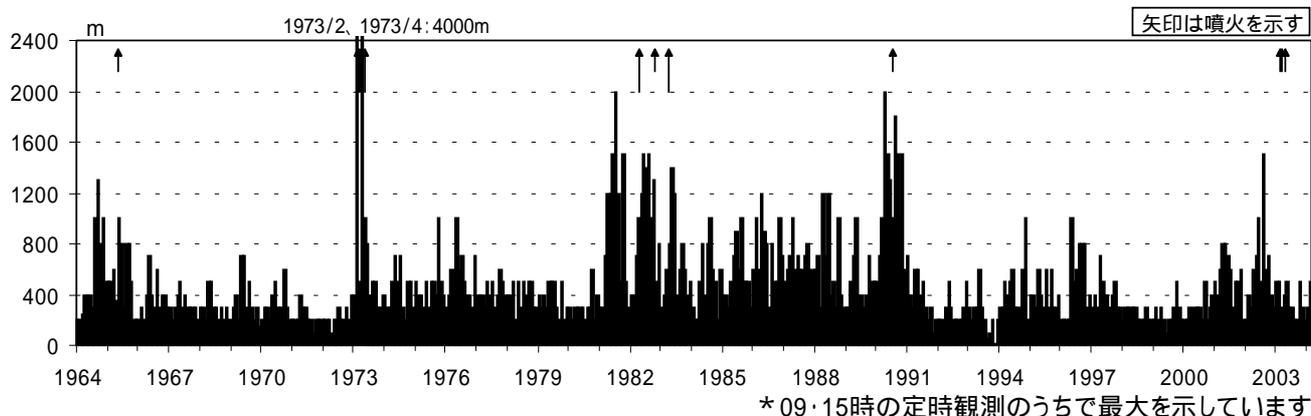


図6 浅間山 月別噴煙高度(1964年1月~2004年2月)

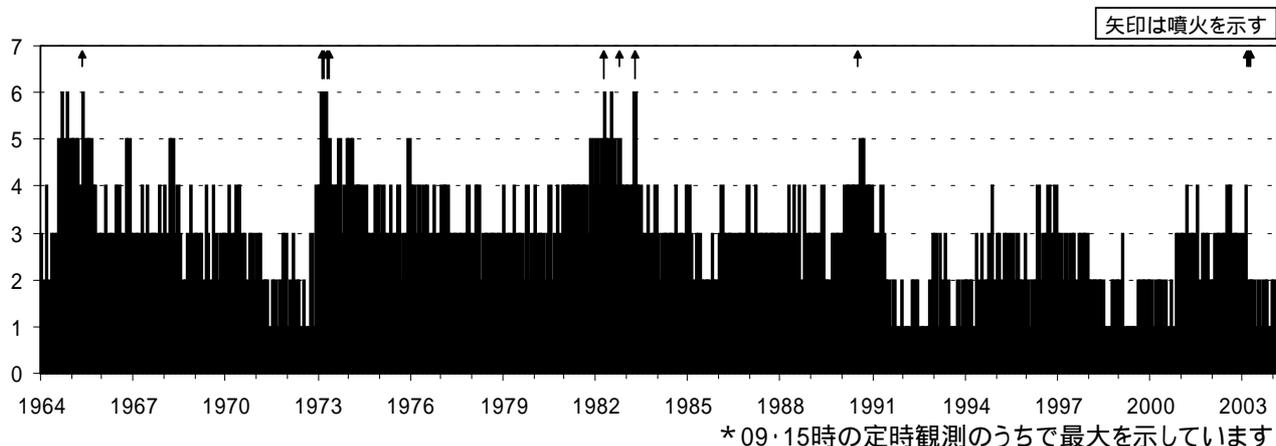


図7 浅間山 月別噴煙量(1964年1月~2004年2月)

火口温度の状況

群馬県林務部設置の赤外カメラにより、火口底内の高温部分が確認されており(図8)、火口底温度の高い状態は続いていると考えられます。ただし、昨年前半(図8)に比べると高温部の面積は縮小してきており、全体としては低下傾向にあります。

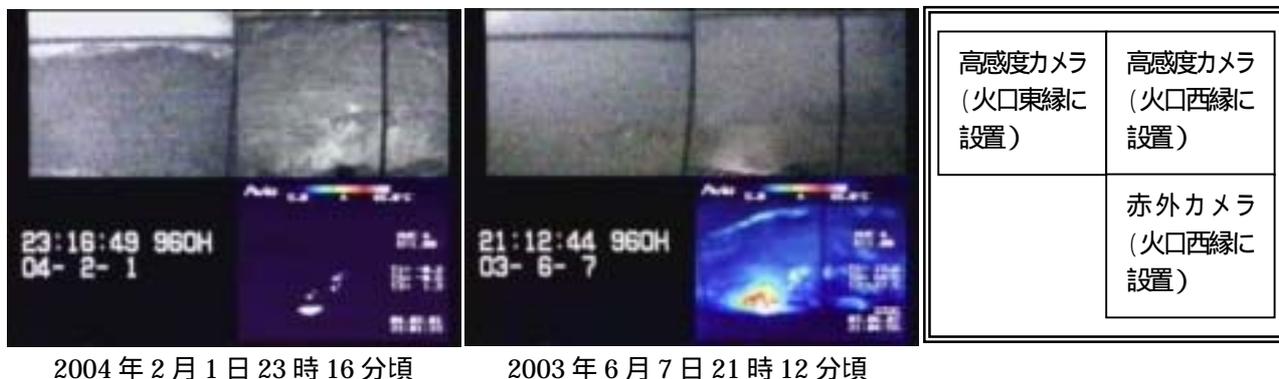


図8 火口カメラによる火口内の状況

地殻変動の状況

G P Sによる連続観測では、火山活動によるとみられる顕著な変化はありませんでした(図9)。

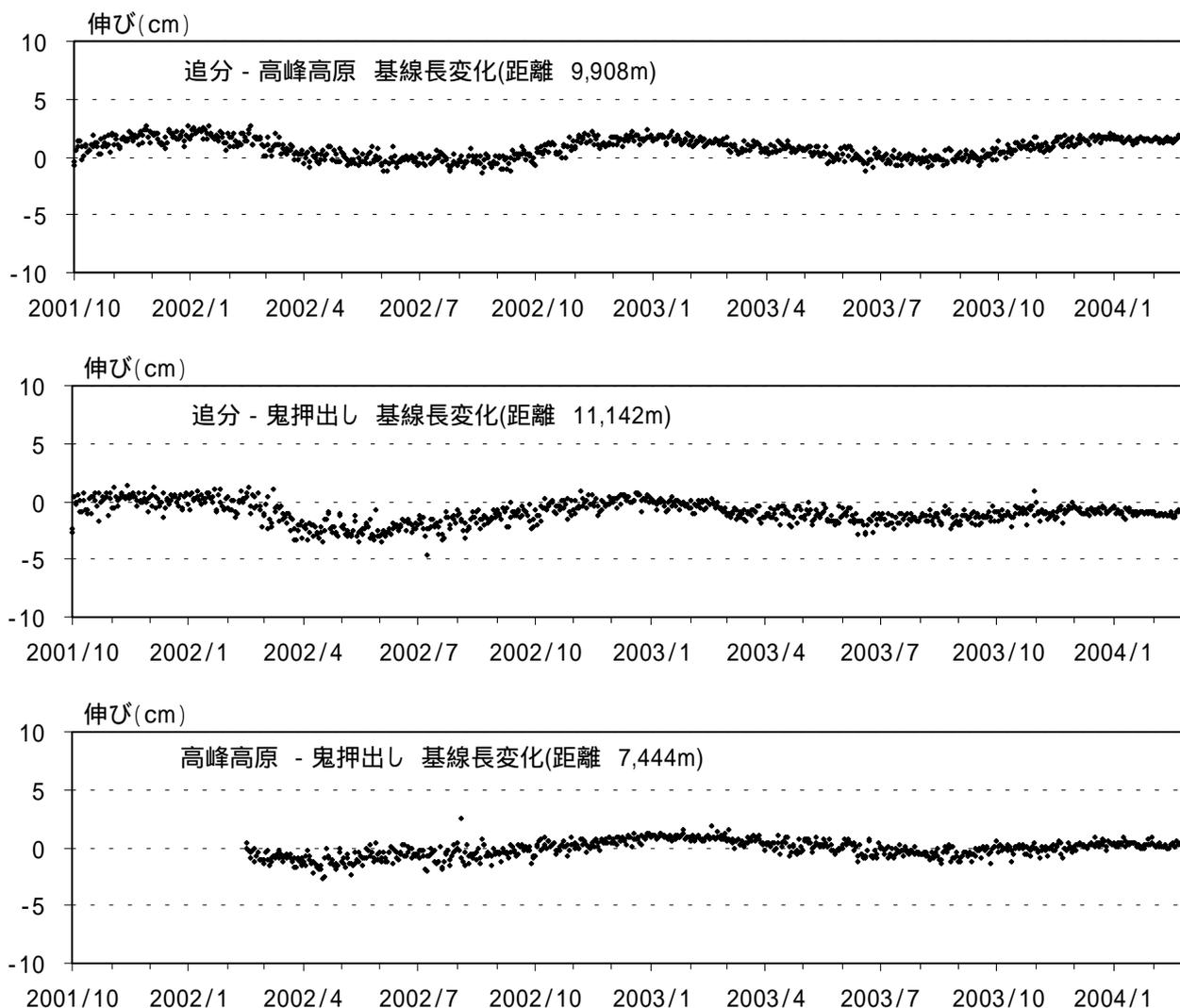


図9 浅間山 G P S観測結果(2001年10月1日~2004年2月29日)

冬季の伸び、夏季の縮み傾向は見かけ上のもので、火山活動によると見られる変動は観測されていない。

観測点配置

